

(別添2)

事業評価の結果 (内容評価項目)

福祉サービス種別 保育所
事業所名 (施設名) 切原保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>○佐久市は、保育指針の基準に沿って、「佐久市基本計画」が作成されていました。</p> <p>○保育課程は、佐久市基本計画・「子育て支援・児童福祉に基づき、佐久市保育理念が作成されていました。</p> <p>○当保育園理念は、佐久市保育理念に基づき、保育目標・園理念・園の方針が作成され編集されていました。</p> <p>○保育課程は、佐久市基準にのっとり、子どもの発達過程や家庭状況、保育時間、地域の状況が考慮され作成対応されていました。</p> <p>○切原保育園の保育理念・方針は職員会で作成されていました。</p> <p>○職員会では、重点目標、研究テーマも含め振り返り・評価が行われていました。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 9 内装等には、木材を利用している。 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○山里の自然を生かした保育園は、緑の木々に囲まれた中に建てられていました。各保育室からは園庭がみられる大きな窓があり風通しや、採光、温度、換気、音など等考えられ、子どもたちが安心して過ごせていました。</p> <p>○今年の猛暑では暑さ対策の検討が必要かと思われます。</p> <p>○室内は整理整頓され各年齢別に子どもたちが使いやすい工夫がされていました。</p> <p>○特別支援の必要な子どもの為にクールダウンの場所が保育室の一角に設けるなど工夫がされていました。</p> <p>○年齢により空き保育室を利用し、活動や午睡の場が確保されていました。</p> <p>○手洗い場、トイレは子どもが使いやすくなっていました。</p> <p>○小規模保育園の為に全職員がひとり一人の子どもの発達過程や家庭環境を把握し個々の関りを理解し、尊重されていました。</p> <p>○延長保育は、少人数の為に遅番体制をとり、日中活動がわかる</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<p>13 ■ 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</p> <p>14 ■ 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</p> <p>15 ■ 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</p> <p>16 ■ 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</p> <p>17 ■ 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</p> <p>18 ■ せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</p>	<p>体制がとられていました。</p> <p>○評価調査や聞き取り調査で子どもの気持ちになり、持てる力がのびのび出せる対応をしていることが確認できました。</p> <p>○特別支援の必要な子どもには加配の保育士と協力して、混乱のない支援をされていることが確認できました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<p>19 ■ 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</p> <p>20 ■ 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</p> <p>21 ■ 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</p> <p>22 ■ 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</p> <p>23 ■ 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</p>	<p>○基本的な生活習慣を身につける為に、食事・排泄・睡眠・着脱・清潔は一人ひとりの発達状態に応じて実施されていました。</p> <p>○家庭で就寝時の着替えの為に、午睡時パジャマに着替える等工夫や昼食時の持参した弁当箱を包むナプキンに工夫をして、結ぶ練習等、生活習慣が習得できる工夫を、家庭と協力して行われていました。</p> <p>○子どもの基本的な生活習慣を身につける為に、無理のない協力を家庭と行っていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a) ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	<p>24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</p> <p>25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</p> <p>26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</p> <p>27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</p> <p>28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</p> <p>29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</p> <p>30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</p> <p>31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</p> <p>32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</p> <p>33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</p>	<p>○園の方針に、子どものありのままを受け入れ、子どもの育ちを支えたとされており、意欲的に活動に取り組めるように援助がされていました。</p> <p>○子ども自身の力で遊びだし達成感が味わえるように、力を注ぐと重点活動に挙げており、聞き取りや評価調査で確認ができました。</p> <p>○小規模保育園の為、異年齢保育や遊びは異年齢で行われており、上の子は下の子に優しく下の子は上の子を頼りにする等社会的ルールや人間関係が育っていました。</p> <p>○園庭中央には大きな松の木が木陰を作り、落ち着いた庭でした。またゆったり遊べる裏山があり、昆虫や小鳥の音が聞かれる自然豊かな環境になっていました。</p> <p>○お散歩に出かけると、地域の方が田畑で作業されており声をかけてくれたり、近くに小学校や郵便局、神社仏閣があり社会体験の機会ができていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a) ■ ■ ■ ■ ■ ■	<p>34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</p> <p>35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。</p> <p>36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。</p> <p>37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</p> <p>38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</p> <p>39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</p>	<p>○0歳児が長時間過ごせるように、畳の空間や保育士の手作りおもちゃ、サイコロ、パズル、コロコロスロープなどが提供されていました。</p> <p>○環境においても、温度、湿度管理がきちんと行われていました。</p> <p>○家庭との連携は、朝の受け入れ時に家庭での様子を聞きとり、突起については、全保育士が把握し、様子を見ていました。連絡帳も0歳児専用のものを活用し、発達過程に応じた保育が行われていました。</p> <p>○未満児の午睡就寝時(SIDS)には、安全保育を行い事故防止を行っていることが確認ができました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a) ■	<p>40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。</p> <p>41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</p> <p>42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</p> <p>43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</p> <p>44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。</p> <p>45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</p> <p>46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</p>	<p>○いやいや期の真っ最中のため自我の芽生えを大切にしている保育を行う、成長の過程を大切にしている保育がされていました。</p> <p>○自分でやろうとする気持ちを尊重し、手を使う遊び（新聞紙を破く、つまむ、転がす）など自発的な活動ができる機会を多く取り入れていることが聞き取り調査で確認ができました。</p> <p>○保育活動には、地域の方のボランティアを受け入れ、本の読み聞かせなどが行われていました。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法	a) ■	<p>47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</p>	<p>○年齢ごとの成長と、自主性を得られる日々追求し、子どものアイデアや、思いを大切にしています。</p> <p>○小規模保育園のため、4、5歳児の合同保育を行っていました。合同保育で4歳児は5歳児を尊敬する保育、5歳児は4歳児を思いやる保育が日々行われていました。</p> <p>○保育士は、親と共に成長を喜び合える、保育を心がけ、個性豊かな、友だちと協力しやり遂げる活動に取り組んでいました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<p>51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。</p> <p>52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</p> <p>53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</p> <p>54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。</p> <p>55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p>56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</p> <p>57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</p> <p>58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</p>	<p>○障がいに応じて保育室にクールダウンの場所を設け、状況に配慮されていました。子ども同士の関りを大切にすると落ち着いたときに子どもたちとかかわれる配慮がされていました。</p> <p>○市の子育て支援課では毎月発達支援研究会が行われ勉強会が行われていました。</p> <p>○障がいのある子、可能性の子どもを含め数名利用していますが、発達過程や障がいの状態を把握して、設備や他の子どもとの交流に配慮した個別保育計画に基づいた保育支援がされていました。</p> <p>○利用保護者に、障がいのある子の保育に関して、情報の提供があることを聞き取り調査で確認されました。障害のある子の対応と情報の提供の取り組みを期待します。</p>
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<p>59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</p> <p>60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</p> <p>61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</p> <p>62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</p> <p>63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</p> <p>64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</p> <p>65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</p>	<p>○子どもと同じ目線に立ち、子どもの気持ちに寄り添って、子どもに学ぶ。を重点活動にされています。子ども主体の計画を持った取り組みがされていました。</p> <p>○小規模園のため年中・年長異年齢の保育がされています。異年齢で様々な活動を行いお互いに思いやりを持ち、安定した気持ちで友達と楽しく活動してほしい。を園の願いにされ実施されていました。</p> <p>○長時間保育については、市の保育支援計画に基き、食事の提供や必要な場合はおやつ提供がされていました。</p> <p>○小規模園で有る事で長時間保育の子どもが少なかったり、短い為遅番体制で対応していました。日中の関りもあり保護者への引継ぎも適切に行っていました。担当の保育士と保護者との連絡はノートの活用をされていました。</p> <p>○一部の保護者から長時間の為担任と話す機会が少ない、日頃の子どもの様子がわからない、ノートにも書かれていないとの意見がありました。連携が十分とれる配慮を期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わり配慮している。	b)	<p>66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</p> <p>67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</p> <p>70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</p>	<p>○市の子育て支援計画に記載されている事項に基づき、保育が行われていました。</p> <p>○小学校は道を挟んだ向かい側にあり運動会など雨天時に体育館で行う等協力体制ができていました。また、交流の機会も定期的に実施されていました。</p> <p>○市の子育て支援課で作成された「保育所児童保育要録」に基づき記載され、小学校と就学に向けた連携ができていました。</p> <p>○小学校の運動会や一日入学体験を行い、子どもが就学に向けて、楽しみが持てる対応がされていました。</p>
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<p>71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</p> <p>72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えとともに、事後の確認をしている。</p> <p>73 子どもの保健に関する計画を作成している。</p> <p>74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</p> <p>75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</p> <p>76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</p> <p>77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</p> <p>78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。</p>	<p>○子どもの健康は入園案内や連絡帳が活用され対応ができていました。</p> <p>○子どもの安全と健康管理は保育の基本事項です。一人ひとりの健康状態、発育、発達状態に応じた心身の健康保持の整備が確認できませんでした。</p> <p>○一部の保護者から、ケガや大きな内出血があったと不安の声が聞かれました。保護者への連絡とともに事後の確認もお願いします。</p> <p>○保護者から少人数の保育で、子どもの成長に合わせた対応がされており、未満児ですが安心して利用できますとありました。</p> <p>○職員は乳幼児突然死症候群に午睡時等5分に1回の確認を行い安全な保育を行っていることが園長より確認ができました。家庭でも危険があり情報・知識の周知を行っている確認ができました。一層の安全保育を期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a) ■ ■ ■	79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。	○健康診断、歯科検診、眼科検診は、年計画に基づいて実施されていました。 ○健康診断等結果については、市の子育て支援の書式に基づき、健康カルテや指導計画に記載され職員間で共有がされていました。
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a) ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	○アレルギー疾患や慢性疾患の子どもについては、アレルギー対応ガイドラインに基づいたマニュアルにより対応されていました。 ○家庭との連携を密にし、市からの献立表とは別に調味料の成分まで記載されたものをチェックし、アレルギー対応を行いました。 ○職員はアレルギー疾患、慢性疾患等の研修を行い、知識と情報を習得し、朝礼で確認を行っていました。また、保育室にも個々の対応表があり配慮がされていました。 ○何年か前に事故がありましたが、振り返りを行い、再発防止に取り組まれていました。
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a) ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 91 食器の材質や形などに配慮している。 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。	○今年度は、研究テーマに食育を取り上げ、食に対し豊かな経験、楽しい食事、落ち着いて食事をとる、正しい箸の持ち方に力を注がれていました。 ○畑ではジャガイモ、サツマイモ、トマト、ナス、ピーマン、トウモロコシ、キュウリと多くの種類の野菜を作り、採れた野菜は給食に、焼き芋会に利用されていました。 ○廊下には野菜の絵や写真等で育ち具合が子どもたちにわかるよう展示されていました。いつでも自分たちが育てた野菜をみることでできていました。 ○訪問日の給食は、家からのご飯に野菜を多く取り入れた、薄味のものが出されていました。好き嫌がなく、またお代わりをする子どももいました。果物は特産のリンゴが出されていました。 ○子どもが食べて良いもの、食べられるもの、食に関心を深める取り組みは、子どもたちと楽しみながら自然にされていました。 ○聞き取り調査で、家庭では食べないが保育園では食べると家庭から話されたことを聞くことができました。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることができる食事を提供している。	a)	<p>96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</p> <p>97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</p> <p>98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</p> <p>99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</p> <p>100 季節感のある献立となるよう配慮している。</p> <p>101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</p> <p>102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</p> <p>103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</p>	<p>○食事の献立は市の管理栄養士が作成し全保育園に配布されています。カロリー、たんぱく質、脂質、塩分が計算され、地元の農畜産物が多く利用され、子どもたちがおいしく安心して給食が楽しく食べられる工夫がされていました。</p> <p>○調理委員からは、アレルギー児へ食器の色を変える対応や乳幼児食、手作りおやつ等、子どもの様子を見ながら適切な対応を心掛けていると、聞き取り調査ができてました。</p> <p>○市の献立表は、郷土色豊かな、季節感や行事感のあるもので、家庭でも活用できそうな身近な献立になっていました。</p> <p>○今年度は食育が研究テーマとされていました。子どもたちが楽しく、おいしく、バランスの良い食事が身に着き、食の大切さを感じられる取り組みが継続されることを望みます。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<p>104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</p> <p>105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</p> <p>106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</p> <p>107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</p>	<p>○保護者や家庭との連携については、入園児に丁寧な説明がされていて、その後は送迎時の連絡や連絡帳、クラスだより・園だよりにより子どもの活動や発達状況・保育の意図についての情報の提供・共有が図られていました。</p> <p>○保護者調査から、いろいろな情報が提供されている。子どもの生活を充実させるために情報の交換、内容の検討に活用されることを期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b) ■ ■ ■ ■ □ ■	<p>108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</p> <p>109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</p> <p>110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</p> <p>111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</p> <p>112 相談内容を適切に記録している。</p> <p>113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</p>	<p>○保護者の相談支援には、園長や主任保育士が対応する仕組みがありました。日常的には連絡ノートで対応がされていました。</p> <p>○保護者アンケートや、職員聞き取り調査から、十分に相談がされていないとコメントがありました。保護者との信頼関係を築くために、組織的な相談支援体制と周知、定期的なアンケート調査を行い、ニーズの把握、職員間での共有の仕組みの見直しの取り組みを期待します。</p> <p>○玄関に苦情・相談の受付の掲示はされていましたが、意見箱等の設置の検討を望みます。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b) ■ ■ □ ■ □ ■ ■	<p>114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</p> <p>115 虐待等権利侵害の可能性がある職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</p> <p>116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</p> <p>117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</p> <p>118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</p> <p>119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</p> <p>120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</p>	<p>○虐待等権利擁護について市等の情報により、職員も周知されていました。いち早く発見できるように、保護者や子供の様子に注意を払うこと「何かおかし」という感性を研ぎ澄ますこと。・疑いを持ったら、園長に報告、全職員で問題確認と共有理解「こんなこと言ったら笑われるのではなく」等されていました。</p> <p>○市の子育て支援課作成の、虐待防止へのチェックシートがあり「子供の様子」「保護者の様子」があり虐待等権利侵害に関する理解を全職員で意識を持ち対応されていました。</p> <p>○発育測定時や毎日の行動面で全職員が注意をし、園長、子育て支援課と協力し虐待に取り組みされていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b) ■ ■ ■ □ ■ □	<p>121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</p> <p>122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</p> <p>123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</p> <p>124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</p> <p>125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</p> <p>126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</p>	<p>○職員の聞き取り調査において、職員のモチベーションの高さ伺えました。保育課程と指導計画に基づき保育の実践を行っていました。振り返りの自己評価も市の規定に沿って行われ、専門性の向上や保育の改善に取り組まれていました。</p> <p>○保育士個々の自己評価と同様に組織として、保育所全体の保育実践の自己評価に期待します。</p> <p>○正職は市で行っている、業績評価シート・技能業務評価シートを活用し自己評価につなげていました。保育にかかわっている全職員に自己評価が行われ保育の質の向上につなげていかれることを望みます。</p>